

NIHONJIN NO WASUREMONO
日本人の忘れもの
 第2部 忘れもの 25
 華 森 清 範 清 水 貴 主

日本画

15歳で日本画の世界に触れてから、長い年月が過ぎました。今でも描く度に新しい発見と出会いがあります。

日本画材は自然の素材から作られたものが多く、準備や工程は複雑で時間がかかり、気候に左右されます。けれどそのことがかえって豊かな時間と工夫を与えてくれます。日本画には自然のあらゆるものと生命や時間を共有し共に生きる、そんな世界観があると感じています。

日本画材を選んで入学した高校で、初めて目にした絵の具は宝石のように美しく、先輩の描かれた作品の緻密さに驚いた記憶は今も鮮明に残っています。日吉ヶ丘高校美術工芸コース(現銅駝美術工芸高校)には130余年の歴史があり、卒業生が多くの作品を残してくださっています。

加山又造先生13歳の写生が作品を創る支えと礎に

当時、私が見せていただいたのは加山又造先生が13歳で描かれた土瓶の緻密な写生でした。口の大きな小ぶりの土瓶は茶色の土肌、白い釉薬がそこにあるような手ざわり、藤をまいた持ち手の感触まで伝わります。何も知識がないままでしたが、じかに身体と心に渗みる教育を受けたことは、現在でも作品を創る支えと礎になっています。高校生活でよい作品に出会い素材に触れた経験は、小さな種をたくさん蒔いてくれました。

日本画の顔料は主に、貝殻を焼き天日干しし、染料で染めた水干絵具、胡粉、半貴石を砕いた岩絵具を動物の皮革から採れる膠で画面に定着させて描きます。絵の具は色一色、絵皿に指で溶きおろさなくてはなりません。膠は温度や湿度で性質を変えます。それらで描くのは面倒で難しい作業ですが、



猪熊佳子
日本画家

すべての山川草木と共に生きて悦びと厳しさを想い
 構想する幸せな時間。



すべての山川草木と共に生きて悦びと厳しさを想い、構想しながら、自宅のアトリエで屏風の制作で仕上げの調子を入れる猪熊佳子さん。

よい作品や素材に触れる時間を
 楽しみながら作る

森や山々を巡り出会った人々、思いがけず差し込んだ光、突然の雨、動物たちの気配や鳥の囀り、そここで感じる悦びと厳しさを想い構想する幸せな時間です。ゆつくりと小さな種が発芽するのを待つ。工程の多い画材がくれる贈り物だと思っています。8年程前から近くの小学校で月に一度美術の授業をしています。日本画材にじかに触れ、作品を創る悦びと作品を通じての新しい出会いを体験してほしいという願いからです。一年を



児童作品の掛け軸と風呂呂屏風。ふれあいクラブの授業風景(安永小学校)。



「燐めきの森へー冬」(20F 60.6×72.7cm 銀箔 2012)

いづれか、1958年京都市生まれ、京都市立芸術大学大学院日本画専攻科修了。81年、日展に初出品。90年ごろ初めて屋久島を訪ね、その森に感動。森など自然から感じるものが作品のテーマとなる。95年の阪神淡路大震災を機に画家の役割に自覚め、本格的に日本画家としての生活に。京都府文化賞奨励賞、京都市芸術新人賞など数多くの賞を受賞。

戦後、日本人は物の豊かさと引き換えに大切なものを忘れてきたのではないだろうか。日本人が忘れつつある価値観が今も生き続ける千の都・京都から温故知新の知恵を発信する。(毎週日曜日に掲載します)

きょうの季節せ(十二月)

裏畑の落葉に鶏の卵かな



肉にしる卵にしろ、大量の需要に応じるために、鶏は良質の飼料を与えられ、運動を阻まれ、大型鶏舎の中でひたすら肥育や多産に励んでいる。ごく稀にこれとは異なった飼育法にて鶏にかかわる商いを営む業者もある。すなわち放し飼いで、掲句のとき景である。かつて見馴れた農村家庭の普段の景である。(文・岩城久治)

「きょうの心伝て」

池上博 公務員 京都市南区 53歳
 京の門掃き
 私は生まれてから中学卒業まで、古い平屋の軒長屋で大きくなった。幼稚園に入る前くらいまでは、水道の蛇口は家のなかにはなく、二軒にひとつ家の外にあるだけだった。当時の家の前の風景で印象に残っているのは、大きな木のりんご箱を利用したごみ箱が置いてあったことである。このごみ箱には、「京の門掃き」の風習で、毎朝互いの家の前を清掃して出たごみを捨てたりしていたが、門掃きは近所の主婦同士のコミュニケーションの場であった。今も一部の企業では、門掃きが行われているが、その一方でスーパーやコンビニのごみ箱に「家庭ごみ持込みお断り」の表示を見るたび寂しい気持ちになる。そういう行為は、ごみと一緒に自分の良心をも捨てているのではないかと、思うとともに、昔の風習の大切さを再確認するのである。

「きょうの心伝て」募集

●あなたの思う「日本人の忘れもの」は何ですか?暮らしの中で忘れてはならないと思う日本人の心の系譜や、伝えたい京都に残る心遣いなどをお寄せ下さい。京都新聞社で選考、選別する場合もあります。原稿は返却いたしません。タイトル(12文字以内)と本文(400文字以内)、郵便番号、住所、氏名(匿名は不可)、職業、年齢、電話番号を明記し、〒604-1857 京都新聞COM「きょうの心伝て」係まで。E-mail: wasuremono@mb.kyoto-npc.co.jp Fax: 075-229-2100 ●日本人の忘れものは、京都新聞ホームページ/kyoto-npc.jp/kyo_an/info/nwc/よりご覧いただけます。

歴史に学び、明日へ挑む。

2015年、京都産業大学は創立50周年を迎えます。学祖・荒木俊馬は「産業」を「産すび業〜むすびわざ〜」と読み解き、その想いを大学名に託しました。「むすぶ」は「むす」から派生した語であり、「産み出す」という意味を持ちます。モノ・コト・ヒトを新しい発想で結び、これまでにない価値を社会へ産み出す。私たちの名には、まさに「イノベーション」の概念が刻み込まれているのです。京都洛北、神山(こうやま)の地に理想を求め、学祖自ら森を踏み分けて開学以来、まもなく半世紀。絶えざるイノベーションのアイデンティティを受け継いで、私たちは今、創立50周年記念事業「むすびわざDNAプロジェクト」をスタートさせます。これまでの50年を未来への礎として、新たな京都産業大学像を築くために、そして何よりも、社会に新しい価値を産み出す人を育てるために、京都産業大学はこれからも型やぶりの挑戦を続けていきます。



Keep Innovating.

創立50周年記念事業「むすびわざDNAプロジェクト」始動。

グローバル化に 대응する人材育成へ。地域再生の核となる取り組みへ。学生・教職員・学外の人々の専門知が集う「集合知」、独創が出会う「共創」を理念に、社会の変革を担い、建学の精神を実現するアクションを開始します。

一般入試 [前期日程] 12/25(火)~1/15(火) 出願期間 ※締切日消印有効
 京都産業大学 ネット割 1出願ごとに5,000円割引 併願するとさらにお得に! 詳細は http://sgc.kyoto-su.ac.jp/

京都産業大学
 ●経済学部 ●経営学部 ●法学部
 ●外国語学部 ●文化学部 ●理学部
 ●コンピュータ理工学部 ●総合生命科学部